

平成24年度病害虫発生予報第1号(4月予報)

＜お知らせ＞ トマトにおけるスイカ灰白色斑紋病ウイルス(WSMoV)によるウイルス病の発生についてのコラムがあります(14ページ参照)。

今月のトピックス

黒腐病 (パパイヤ)

学名 : *Erwinia* sp.



宮古島市内の罹病株

(写真: 東京農業大学農学部准教授篠原弘亮氏提供)



普通寒天培地上でのコロニー



接種試験による病徴の再現(噴霧接種)

生態と被害

2002年11月に石垣市で栽培されているパパイヤにおいて本病が国内で初めて確認された。本病は、葉柄が灰白色を呈し窪んだのち暗褐色から黒色に変色し、葉は全体が黄化あるいは葉縁部周辺から角斑状に黒変する。次いで葉がしおれ葉柄部から先が垂れ下がり、変色部分が腐敗して葉柄部から脱落する症状を呈する。細菌を分離すると、乳白色～汚白色、扁平、円形で湿光を帯びたコロニーを形成する。分離菌は、グラム陰性、ジャガイモ塊茎腐敗陰性などの疫学的性質を有する。無傷のパパイヤ苗に分離菌を噴霧接種すると、7日目には葉に黒色の角斑を生じ、14日目には葉が脱落枯死した。沖縄県では、石垣市と宮古島市で発生が確認されている。

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

平成24年3月23日
沖縄県病害虫防除技術センター